

NPO 法人高田暮舎（岩手）



■地域内外へ「ありのままの暮らし」の価値を伝えていく

NPO 法人高田暮舎は「震災後、U・I ターンをする人が増え、この流れを一過性のものではなく面でもとらえたい」と考え、2017年7月に発足しました。東日本大震災後に5千人の人口が減少した陸前高田市で、高田暮舎は「高田で暮らす」ことの魅力を発信し続けています。

移住を考えるポイントとなる『居=居場所』『職=仕事』『住=住まい』を中心にポータルサイトでの情報発信、空き家バンクの運営、移住コンシェルジュによる移住相談などを、地元出身者と移住者がワンチームとなり、市役所と連携しながら複合的にコーディネートし、ありのままの高田暮らしに価値を生み出す事業を行なっています。

また、スタッフの多くが移住者のため、自分で働き方をデザインしながら、陸前高田らしい暮らしを満喫しています。

■空き家と移住をテーマに新たな挑戦を

高田暮舎で特に力を入れている取り組みが、空き家管理・整理事業と移住コーディネートです。インターン生も高田暮舎の一員となり、共に各事業を加速してもらいたいと考えています。

<空き家管理・整理>

人口減少、流出に伴い全国各地で空き家は増え続け、2030年には全国で2千万軒にものぼるという調査結果が出ています。家主が不明な家もあれば、現地から離れて都会にいる遠い親戚が名義だけ持っていて管理がされていない家など、空き家の状況は様々です。

東日本大震災で甚大な被害を受けた陸前高田市も同様に、今後も市内の空き家は増え続けていくことが予想されています。空き家は持っているだけでは不安や負債のタネとなりますが、適切な管理を施すことで、移住者へ低コストで住まいを提供できたり、古くから残る生活文化の保守・活用といった、「新しい資源」として捉え直すことができると高田暮舎では考えています。そこで、2020年度から空き家管理・整理事業を立ち上げ、清掃などの管理業務から家財・遺品整理まで、専門業者とも連携しながら空き家の総合窓口となる取り組みを始めました。夏に向けて実際に家主さんへのご案内を行っていく予定です(7月実施予定)。空き家から離れた所にいる家主さんにも空き家を「資源」と感じてもらえる”共同体験”を創るには?持続する空き家事業モデルの構築が目標です。

<移住コーディネート>

ありのままの高田暮らしを知ってもらい、将来的な選択肢の一つに陸前高田市を持ってもらうこと。さらに、移住者が暮らしの不安を解消し、わくわくする高田暮らしを送っている状態を目指し、移住コンシェル機能の拡充を進めています。東京に陸前高田を持っていく「高田暮らしカフェ@東京」では、2019年度は3回の企画で合計約100名を集客し、陸前高田を味わい、楽しみ、陸前高田を想う空間を創ってきました。

2020年度は関西圏での企画実施やお試し移住も企画しています。しかし、新型コロナウイルスの状況を鑑み、リアルイベントはいったん保留とし、オンラインでの開催を検討しています。新型コロナウイルスがきっかけではあるものの、離れていても陸前高田を想うことはできないのか?という新たな可能性を探る機会にもなりました。この可能性にトライすることで、コロナ収束後においても、陸前高田との新しい関わり方のモデルになっていくと考えています。オンラインで陸前高田を感じてもらえる工夫やイベント参加者と交流する地域住民側へのサポートなど、考えることは様々ですが、オンラインで陸前高田を感じられる”共同体験”の創出を共に挑戦したいと考えています。

まだ行ったことのない場所を”想う”とは?インターンシップもオンラインで行うからこそ、皆さん自身が陸前高田を”想える”活動をすることが大前提です。オンラインであっても高田暮舎らしい移住コーディネートを推進していきたいと考えています。

■地域の魅力は”ひと”の魅力

高田暮舎スタッフの三橋(空き家事業担当)と松田(移住コーディネーター担当)は、二人とも陸前高田へ移住し、元は空き家だった家でそれぞれの高田暮らしをしています。移住の経緯は異なりますが、共通する重要なきっかけの一つに”ひと”との出会いがありました。

ひととの出会いを大切に思う二人だからこそ、これから陸前高田を知ってもらおう方にとって、まず自分たちが魅力的に思ってもらえるひとでありたいと考えています。インターン生にも陸前高田の”ともだち”をつくってほしいと思っています。



■組織体制

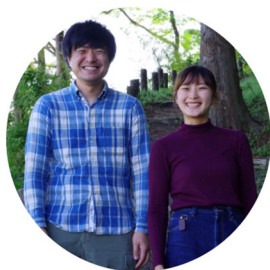
設立 2017年5月25日

代表者名 岡本 翔馬

従業員数 4名

WEB <https://takatakurashi.jp/>

住所 岩手県陸前高田市高田町字荒町 33 番地陸前高田市チャレンジショップ C-2



松田道弘／移住コンシェルジュ

《プロフィール》

1986年、岩手県遠野市で生まれる。県内の福祉系専門学校を卒業後、介護福祉士として働く。2014年に地元の遠野市を離れ、神奈川県で鉄道員として働く。2019年4月、「岩手県で暮らしたい」という想いで、陸前高田市地域おこし協力隊として着任。現在は、高田暮舎で移住コンシェルジュとして移住前と移住後の相談・サポート業務を行っている。休日は家にひきこもり、ゆっくり寝るなど、おうち時間を満喫している。

《メッセージ》

ともだち100名、新たな出会いを楽しみにしています!その先にある陸前高田との新しい関わり方も、皆さんと一緒に考えられたらいいですね。挑戦者お待ちしております!

三橋英里奈／空き家管理業務担当

《プロフィール》

1996年、東京都荒川区で生まれる。大学2年生の夏、陸前高田市広田町を拠点とするNPO法人SETで活動し、毎月東京から陸前高田へ通うようになる。2018年に「自分の生き方・暮らし方を見つめ直したい」と考え、都内の大学を1年休学し、陸前高田市地域おこし協力隊として着任。2020年3月に大学を卒業し、同年4月から高田暮舎で空き家管理・遺品整理事業を担当している。手芸やギターの弾き語りが好きだが、多趣味が故に時々悩む。美味しいごちそう作りに挑戦している。

《メッセージ》

背丈を測定した柱の跡、少し凹んだ部屋の壁。

1軒の「空き家」には、住んでいた人の思い出が記憶されていると感じながら活動しています。ポジティブな思考を巡らせて、一緒に前進する仲間を待っています!

まずは、私たちのありのままの暮らしぶりをぜひ読んでみてください。

コラム「10月」

<https://takatakurashi.jp/column/2131/>

コラム「移住者ですが1年間東京にUターンしてみた」

<https://takatakurashi.jp/column/2192/>